

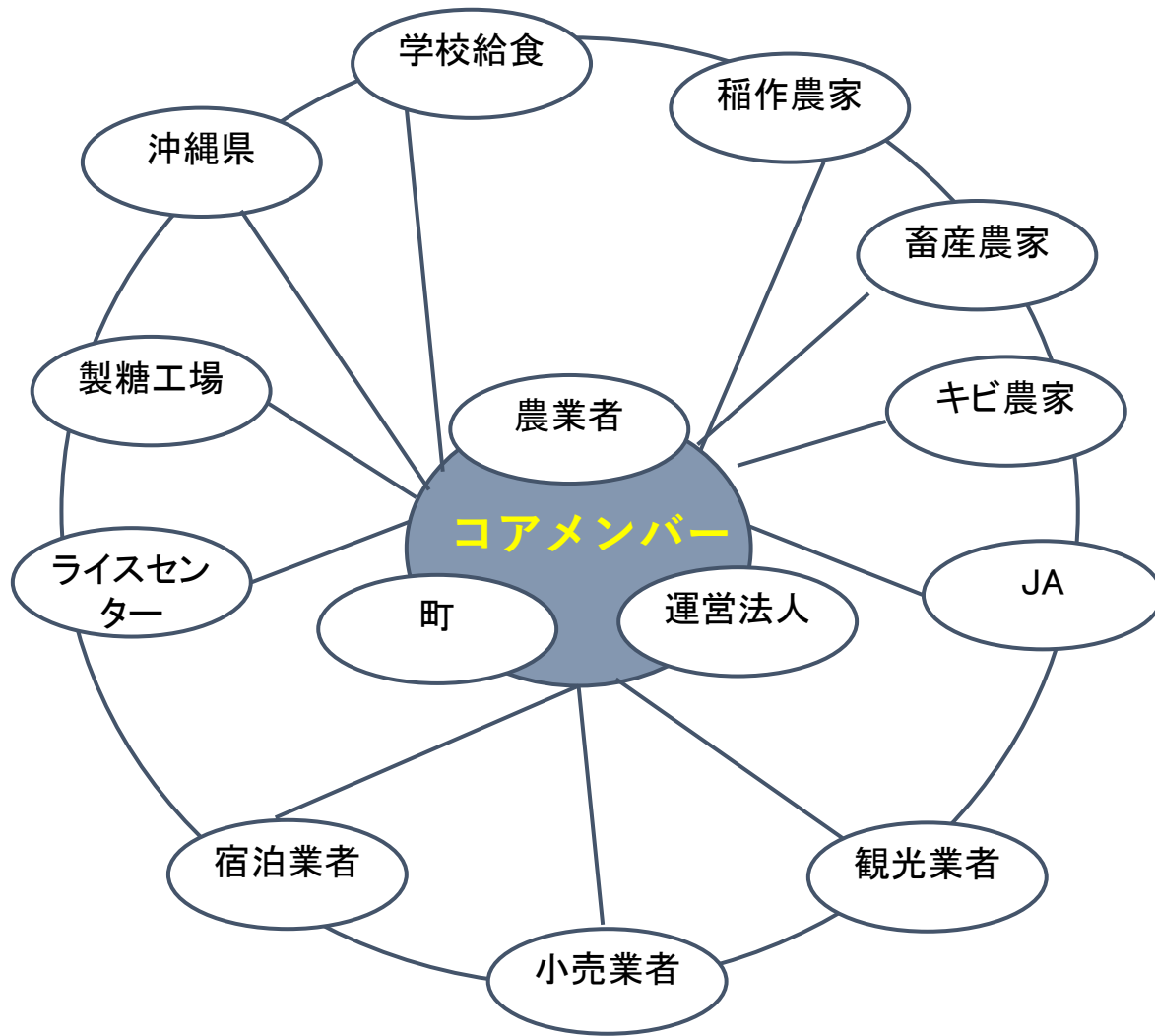
令和5年度 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

第1回意見交換会 発表資料

活動団体名：西表島農業青年クラブ

活動地域：沖縄県西表島

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ



コアメンバーの大切な事

コアメンバーの考えを押し付けるのではなく、構成メンバーの方々の課題を聞き、課題同士や人を繋げていき、解決していける仕組み作りを目指す。

整備が必要であれば行政と調整し、コアメンバーを通さなくても構成メンバー同士が繋がっていける形を目指す。

上ではなく、中心にいる“架け橋”となる事が重要

地域プラットフォームが取り組む事業

- 牛糞堆肥づくり
- 生ゴミ堆肥づくり
- 牛の肥育事業と肉としての販売
- 行政との相互連携
- 小さなライスセンターの設置

他の団体に聞きたい事・相談したい事

- 今後の支援事業が無くなった場合の資運営資金の目処はどれくらいあるか。また、その手段はどのような方法で行うか。

全てが繋がりに循環する島へ

西表島農業青年クラブ

生きていく為に

水、食べ物、電気

自立できているか

船が止まると2~3日で食糧難



何かあったときに備える？

数千万円かけて備蓄倉庫を建て、備蓄の食料飲み物等を3日分用意？

1週間続いたら？

観光客の方の分は？

毎日備蓄品しかたべれない？

備蓄物は島外からの購入？

僕達が目指すもの

普段の取組が

何かあった時の備えにも繋がる

それが観光の魅力にも繋がる

仕組み作り

地産地消

- 島の農畜産物が島で食べられる仕組み作り

資源の循環

- 島にある未利用資源から堆肥等の肥料を作り出し、
それで農作物が作られる仕組み作り

有機農業

- 農薬を肥料を減らしていける事でサンゴや生物多
様性の保全、価値の創出に繋げる仕組みづくり

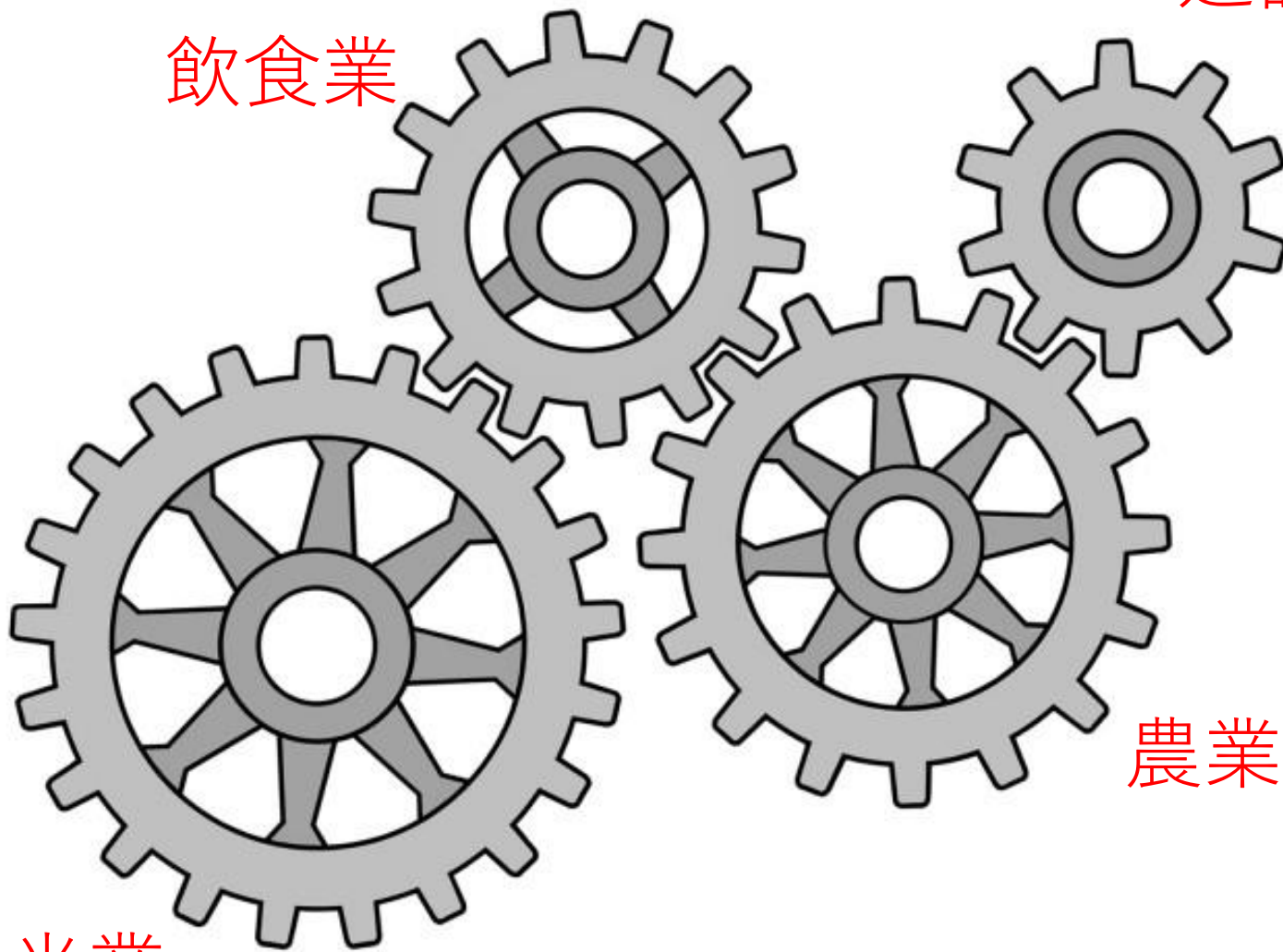


産業が繋がりに経済も循環していく

すべてを繋げていく

建設業

飲食業



農業

観光業

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

環境

- ・ 海洋環境への影響の軽減
- ・ 生物多様性の保全

経済

- ・ 循環型の有機栽培の島
- ・ 人、自然、観光が持続可能

社会

- ・ 島民が住み続けたい島
- ・ 島の魅力を島で感じる

環境保全の
基金が集まる

使用する農薬
が減る

島内産品が
島内で消費される

資源が島外へ
流出しない

島民の
収入向上

島外消費者の
購入増加

観光客が
長く滞在する

生き物に優しい農業
製品のブランド化

学校給食と連携した
島内消費と食育

ホテルや宿泊施設と
連携した島内消費

観光×地産地消の
ツアーコンテンツ

地域通貨×観光

有機作物の島内循環

観光の島内循環

経産牛の島内
肥育事業

堆肥を使った農業

観光客 お土産を販売
製糖工場 する島民

経産牛の島外流出

生ごみの
堆肥化

農業廃棄物の
堆肥化

観光客の短時間滞在

オーバーツーリズム
の懸念

生ごみコンポスト
の家庭配布

島内での精米
ライスセンター
の設置

堆肥化施設
の設置

コンポスト
配布実験

**堆肥を使用した
有機農業**

堆肥化のための
資源調達

生ごみの未処理
共同コンポストの臭い

高い輸送コスト
→農家の負担や環境負荷

農作物の島外流出と
島外作物への依存

農薬や化学肥料による
生物多様性への影響

牛の糞尿の未処理

課題

今年の取組

今後実施

将来実施

西表島の目指す姿の ロードマップ

短期目標
(2023 - 2024)

取組拡大・経済性確保
のための**試行、実績値の
積み上げ**

中期目標
(2025 - 2028)

・資源循環が島内でつながる
・一次産業の連携・生産体制
等の基盤が強化されている

長期目標
(2029 - 2033 ?)

西表島全体に取組が拡大し、
自律的・持続的に循環
する仕組みができています

【短期で取り組むこと】※今年、来年

■西表でしかが主となって実施

- ・バカスを使った生ごみ堆肥化の試行 (2回、**2000kgの生ごみから600kgの堆肥**)
- ・コンポスト配布の拡大(25個⇒50個、一般家庭40箇所)
- ・経産牛の肥育事業の試行 (3頭屠畜、ふるさと納税400kg)
- ・アクティビティと組み合わせた肥育牛の提供 (高付加価値化、BBQを12月に試行)
- ・飼料用米を使った経産牛や鶏肉の生産 (飼料用米5 t 生産、牛2頭/鶏肉200羽)
- ・大学連携によるデータ裏付け獲得

■農業青年クラブが主となって実施？

- ・学校給食、ホテルや宿泊施設と連携した島内消費 (肥育牛のPR、生ごみBOXの協力拡大)
- ・取組の仲間集めのための情報発信・現地視察 (島内・市役所)
- ・島外の応援者を増やすための情報発信

【中期目標に向かって取り組むこと】

①有機堆肥の量を確保する

- ・生ごみBOXの拡大による堆肥確保 3t (BOX25個⇒300個、10kg/個/年)
- ・牛糞堆肥 **1200t (牛糞3000t⇒牛糞堆肥1200t)**
⇒目標達成には牛糞堆肥の量 & 堆肥舎を確保するか、生ごみ堆肥化の量を増やす必要がある
- ・もみ殻を**16 t 確保** (300t/年の米のうち80 t を粃摺り)
- ・飼料用米の作付け **3haに拡大 (2戸の農家さんの協力)**
- ・牛糞をくれる牛を**300頭以上確保** (※仮に2歳未満の割合が50%とすると、牛糞3000tは約435頭必要)

②循環をつなげる

- ・バカス (使える量に上限あり) を使って**安定的に堆肥化できるノウハウ・技術を横展開**する
- ・ライスセンターができるように、**農家の協力者を拡大 (8戸) し、町に働きかける**
- ・飼料用米で肥育した (西表島で生産した餌で育った) 経産牛や鶏肉を**島内で消費する仕組み**をつくる

③循環を太くする (仮)

- ・連携する一次産業者 (生産側) の拡大に向けて、循環する仕組みが経済的にも寄与する (一次産業者の売上) ことを示す (例: 実際にもものが「売れる」実績に積み重ね、比較等)
- ・取組をストーリー立てて発信し、応援してくれる人に提供できる価値をPRする。

人も自然も観光も 循環する西表島

西表島内で資源が循環し地産地消が実現し観光の満足度が向上する事で、農家も観光業者も所得も向上していき、島民も誇りをもって満足しながら生活していける

- 堆肥を使用した有機農業
- 有機作物の島内循環
- 観光の島内循環

■循環に必要な
資材・量
・粃殻 16 t
・バカス 1.5 t
・牛糞 3000 t
・生ゴミ 10 t

■循環に必要な
人・リソース
粃殻・バカス・牛糞・生ゴミ

■循環に必要な仕組み
・ライスセンターの整備
・堆肥場の整備
・バカスが手に入る仕組み
・有機農業を後押しできる政策
・農畜産物や飼料の地産地消

ここまでの成果

- 仮堆肥場の設置と牛糞堆肥づくり
- 生ゴミ堆肥づくり
- 牛の肥育事業の開始と肉としての販売開始
- 町長との連携の確認。視察への同行
- 小さなライスセンターの検討開始
- 運営を担っていく法人格の設立

仮堆肥場と牛糞堆肥づくり



生ゴミ堆肥づくり



経産牛の肥育



経産牛の販売



町長の協力体制



株式会社西表でしかのロゴマーク



島内循環をあきらめない